

2 0 0 4

授業概要

【シラバス】

専攻科

〈保育専攻・福祉専攻〉

白梅学園短期大学

SHERAUME GAKUEN COLLEGE

目次(専攻科)

保育専攻1年	1
教育原論	3
幼児教育特論	4
教育課程論	5
保育原論	6
保育内容研究Ⅰ	7
保育内容研究Ⅱ	8
保育内容研究Ⅳ	9
音楽研究	10
図画工作研究	11
現代保育特論Ⅰ	12
保育健康学特論	13
乳児保育特論	14
障害児保育特論	15
児童福祉特論	16
保育問題研究Ⅰ	17
保育問題研究Ⅲ	18
専攻科実習特演Ⅰ	19
専攻科実習Ⅰ	20
総合演習研究Ⅰ	21
終了研究演習	22
保育専攻2年	23
生活保育論	25
保育実践研究	26
保育内容研究Ⅲ	27
現代保育特論Ⅱ	28
保育・教育相談研究	29
家族福祉論	30
保育問題研究Ⅰ	31
保育問題研究Ⅲ	32
専攻科実習特演Ⅱ	33
専攻科実習Ⅱ	34
総合演習研究Ⅱ	35
終了研究演習	36
福祉専攻	37
老人福祉論	39
リハビリテーション論	40
老人・障害者の心理	41~42
家政学概論	43~44
家政学実習	45~46
介護概論	47
介護技術	48

形態別介護技術	49～50
医学一般	51
レクリエーション活動援助法	52
実習指導	53
介護実習	54
修了研究演習	55
社会福祉制度政策論	56
障害福祉論	57
社会福祉援助方法論	58

保育専攻（1年）

【授業科目】教育原論	
【開講期】 前期	【担当者】岸井勇雄
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義と本質について理解する。 2. 幼児期の教育の特質について理解する。 3. 教師の実務と指導力の向上について理解する。 	
<p>【テキスト】</p> <p>岸井勇雄編著「幼児教育の原理」(同文書院)</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>岸井勇雄著「幼児教育課程総論」(同文書院) 岸井勇雄著「子育て小事典」(エイデル研究所)</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間形成と教育 2. 遺伝と環境 3. 子ども観の歴史 4. 教育の目的と基本構造 5. 人間の成長(1)依存 6. 人間の成長(2)自立 7. 人間の成長(3)連帯 8. 乳児期の発達課題 9. 幼児期の発達課題 10. 「楽しさ」の教育的意義 11. 教師の役割 12. 指導力の向上 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席、討議への参加、課題レポートによる総合評価</p>	

【授業科目】 幼児教育特論	
【開講期】 1年 後期	【担当者】 黒田 瑛
<p>【授業目標】</p> <p>わが国幼児教育の今日の課題を明らかにし、保育の歴史と多様な保育理論を学び、これからの保育のあり方を考えることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業の中で指定する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>資料を用意し、随時参考書を紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>幼稚園教育要領および保育所保育指針が改正され、2000年4月から幼稚園と保育所で新しい基準による保育が始められた。</p> <p>授業では保育の歴史をたどり、今日の子どもがおかれた状況と幼児教育の課題を明らかにする。</p> <p>この課題と取り組むこれからの保育を考えるため、近代における子どもの発見と生活教育・保育の思想の流れをルソー、ペスタロッチ、フレーベルに学び、19世紀の末から20世紀における子ども中心の教育思想と実践をデューイ、モンテッソーリ、そしてシュタイナーに見る。わが国では倉橋惣三の誘導保育論をとり上げる。</p> <p>全体を通じて保育における「子ども中心」の思想を子ども観および遊び、仕事、経験そして環境および保育者の役割などの観点から学び、理解を深めることにしたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートおよび授業への出席と参加</p>	

【授業科目】 教育課程論	
【開講期】 後期集中	【担当者】 小川博久
<p>【授業目標】</p> <p>保育における『援助』について「幼児理解」「環境構成」「援助」の三つの関係から考え、理論と実践を語る予定である。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『保育援助論』生活ジャーナル 2000年</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>①「援助」の概念を中心に理論的に考える。</p> <p>②保育の現場での具体的事例を通して「援助」を考える。</p> <p>③幼児理解と「援助」の関係を考える、環境構成と幼児理解の関係を考える</p> <p>④遊びの場はモノと人、人と人の関係、またそれらが持続する場の関係から子どもの居場所の成立を考える。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目】 保育原論																																	
【開講期】 専攻科 1 年前期	【担当者】 金田 利子																																
<p>【授業目標】</p> <p>短期大学・専門学校時代にすでに保育原理を学んできているので、その上にたって、保育理論と保育実践の関係を取り上げ、異なる見解に注目し、討論をとおして考察力を養う</p>																																	
<p>【テキスト】 金田利子『生涯発達のパラドックスー生活主体の発達弁証法的展開』（三学出版）</p>																																	
<p>-----</p> <p>【参考書】 授業の進行に応じて適宜紹介する。</p>																																	
<p>授 業 計 画</p>																																	
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1. 導入</td> <td style="text-align: right;">(1回)</td> </tr> <tr> <td>2. 人間観・発達観と保育実践</td> <td style="text-align: right;">(8回)</td> </tr> <tr> <td> 1) 問題行動のとらえ方と保育実践</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 2) 障害のとらえ方と保育実践</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 3) 「進歩」のとらえ方と保育実践</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 4) 集団のとらえ方と保育実践</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 5) 自由・主体のとらえ方と保育実践</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 6) 遊びのとらえ方と保育実践</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 7) 高齢者のとらえ方と保育実践</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 8) 子どもの権利のとらえ方と保育実践</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 父母・親権のとらえ方と保育実践</td> <td style="text-align: right;">(1回)</td> </tr> <tr> <td>4. 家族のとらえ方と保育実践</td> <td style="text-align: right;">(1回)</td> </tr> <tr> <td>5. 共生のとらえ方と保育実践</td> <td style="text-align: right;">(1回)</td> </tr> <tr> <td>6. 社会福祉の方向性のとらえ方と保育実践</td> <td style="text-align: right;">(1回)</td> </tr> <tr> <td>7. 総合討論</td> <td style="text-align: right;">(1回)</td> </tr> <tr> <td>8. まとめ</td> <td style="text-align: right;">(まとめ)</td> </tr> </table>		1. 導入	(1回)	2. 人間観・発達観と保育実践	(8回)	1) 問題行動のとらえ方と保育実践		2) 障害のとらえ方と保育実践		3) 「進歩」のとらえ方と保育実践		4) 集団のとらえ方と保育実践		5) 自由・主体のとらえ方と保育実践		6) 遊びのとらえ方と保育実践		7) 高齢者のとらえ方と保育実践		8) 子どもの権利のとらえ方と保育実践		3. 父母・親権のとらえ方と保育実践	(1回)	4. 家族のとらえ方と保育実践	(1回)	5. 共生のとらえ方と保育実践	(1回)	6. 社会福祉の方向性のとらえ方と保育実践	(1回)	7. 総合討論	(1回)	8. まとめ	(まとめ)
1. 導入	(1回)																																
2. 人間観・発達観と保育実践	(8回)																																
1) 問題行動のとらえ方と保育実践																																	
2) 障害のとらえ方と保育実践																																	
3) 「進歩」のとらえ方と保育実践																																	
4) 集団のとらえ方と保育実践																																	
5) 自由・主体のとらえ方と保育実践																																	
6) 遊びのとらえ方と保育実践																																	
7) 高齢者のとらえ方と保育実践																																	
8) 子どもの権利のとらえ方と保育実践																																	
3. 父母・親権のとらえ方と保育実践	(1回)																																
4. 家族のとらえ方と保育実践	(1回)																																
5. 共生のとらえ方と保育実践	(1回)																																
6. 社会福祉の方向性のとらえ方と保育実践	(1回)																																
7. 総合討論	(1回)																																
8. まとめ	(まとめ)																																
<p>【評価方法】</p> <p>出席・授業への積極性・ワーク・討論への参加・レポート等により総合的に評価する</p>																																	

【授業科目】 保育内容研究 I	
【開講期】 1年 前期	【担当者】 若松美恵子
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児の身体運動を中心とした表現の発達、および幼児の身体表現力の発達をふまえ、保育者は、子どもとの関わりの中で、子どもたちが、①感受性が豊かになる、②豊かに表現する、③表現を楽しむようになるにはどのような援助、働きかけをすべきか、その援助・指導方法について学ぶ。特に言葉がけについては演習形式で実践的に学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊地秀範 編 「保育の中の運動あそび」 萌文書林</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>(1) 総 論</p> <p>①幼児教育における身体表現やリズムカルな身体活動の現状と問題点</p> <p>②保育現場で見られる身体表現</p> <p>③身体表現の教育的意義</p> <p>④指導の実践例</p> <p>(2) 身体表現力の発達</p> <p>①保育園の3歳未満児クラスに見られる身体表現とその変化</p> <p>②身体表現活動に見られる身体表現力の発達（3歳児、4歳児、5歳児）</p> <p>(3) 身体表現の指導法</p> <p>①ねらい</p> <p>②援助の基本的姿勢</p> <p>③援助の方法（3歳未満児、3、4、5歳児）</p> <p>(4) 身体表現の援助における言葉がけの研究</p> <p>①指導実践例における言葉がけの分析</p> <p>②言葉がけのあり方</p> <p>③身体表現の発達段階にあった言葉がけの実践的研究</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>講義の一部、対話形式や演習形式をとるので積極的な発言を期待する。これらを平常点とし、さらに最後に与えた課題について各自の考えを記述してもらう。</p>	

【授業科目】 保育内容研究Ⅱ	認識
【開講期】 1年 後期	【担当者】 近藤正樹
<p>【授業目標】</p> <p>幼児教育法の各論“認識教育法”に重点をあてて、哲学、生理学、心理学、教育学におよぶ学際教科“認識”学をねらっている。私流に言えば input教育法の概論という内容になる。自然事象の認識を例示することが多いが、社会事象、文化事象の認識にも通用する認識原理と考えてもよい。また、認知科学とコンピューター・モデルにも言及する。研究法の一助にもなるよう配慮して編成してある。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使用しない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>時実利彦著「目で見る脳」 水野寿彦緒「幼児の生活と自然」教学研究社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>幼児教育法各論をどう考えるか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正しい認識を豊かに身につける教育法（inputの教育について） 2. 自分自身の知的財産を豊かに、効果的に表現できるようにする教育法（outputの教育について） 3. 望ましい生活習慣を身につけ、大人の社会に適応させる教育法（adaptationの教育について） 4. 自然認識・社会認識・文化認識というサブ・ジャンルの特質 <p>“認識”とは何か</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学における terminology（専門用語と生活用語） 2. 用語の正しい理解のしかた <p>“認識”を理解するための生理学①受容器と神経細胞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境のリセプター（全体区のリセプターと局所のリセプター） 2. リセプター（受容器）の構造と機能 3. 神経細胞の構造と機能 <p>“認識”を理解するための生理学②神経系と脳</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 神経系と神経節・脳の関係 5. 脳の構造と機能の分化 6. 生理学的原因による認識不全の現象 <p>“認識”を理解するための心理学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レンズ眼による例像を正位像と見なす適応 2. 残像と編集 3. 錯覚と先入観 4. イメージと記憶のファイリング 5. 夢とファイルと発想 6. “認識”のモデルとコンピューター <p>“思考”を考えるモデル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中沢和子著「新版幼児の科学教育」の分析 2. 中沢和子氏の“思考のプロセス”のモデル 3. “思考”モデルとコンピューターのアナロジー 4. コンピューター理論の現状と未来 5. “認識”と“思考”の教育学的総括 6. “智・情・意”の認識学的説明 	
<p>【評価方法】</p> <p>時間中に提出するレポートと期末試験による</p>	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅳ	
【開講期】 1 年 後期	【担当者】 民秋 言
<p>【授業目標】 保育所保育指針や幼稚園教育要領では「環境を通して行う保育」が特筆されており、そのなかで環境としての人間関係は重要な位置を占める。また、保育指針や教育要領では領域として「人間関係」がとりあげられている。本講では、子どもが育つ環境としての「人間関係」と、育ちのねらいの内容としての「人間関係」の二つを一つのものとして捉え、とくに集団生活に注目しながら考えていく。社会的存在としての人間・子どもの生活拠点としての人間関係のあり様を検討する</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>講義中に適宜指示する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの育ちにとって必要な「人間関係」とは何か 2. 人と人との関わりをもつ意味 3. 集団生活のなかでの子どもの生活 4. 集団生活の展開過程 5. 集団生活を支える社会規範 6. 集団生活を支える文化 7. 子どもの集団生活と保育者の役割 8. 人間関係の発展と保育カリキュラム 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート並びに平常点</p>	

【授業科目】 音楽研究	
【開講期】 専攻科 1年 前期	【担当者】 秋山治子
<p>【授業目標】 これまで培ってきた音楽の基礎知識、基礎能力を更に高めて、幼児の年齢発達を踏まえながら、保育者の人的環境のあり方や指導法等について主に、実践論を通じて学んでいく。授業の柱は以下に挙げる5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 幼児期の音楽について、実践的な指導法や発達を踏まえた援助・指導の仕方を学び、更に探求する。 ② 基礎和声学、伴奏法の習得 ③ 幼児の楽器や様々な音に対する興味・関心を無理のない方法で育てるにはどうしたらいいか、について考え、学ぶ。 ④ 幼児の歌唱行動の理解と幼児歌唱曲のレパートリーを広げる。 <p>3, 4, 5歳クラス子ども達に楽しんでもらえる音楽活動を実践する</p>	
<p>【テキスト】 「子どもの歌」秋山治子著 共同音楽出版社 「コードネーム・和声・伴奏付け」秋山治子監修 共同音楽出版社</p>	
<p>【参考書】 「子どものうた楽譜集」秋山治子著 小学館</p>	
授 業 計 画	
<p>授業は次の3つの柱に沿って進めていく。(幼児の音楽発達と興味を無理なく上手にリードしてゆくにはどうしたらよいか、ということを中心に念頭におく)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 幼児曲を数多く歌い、曲についての理解を深めるため皆で話し合う。 (季節・動物・植物・等を題材にした幼児歌唱曲、現代の幼児歌唱曲について) ② 歌と楽器に関する幼児の音楽能力について理解を深める(3, 4, 5歳クラス)。 (幼児が音楽に親しむための保育者の姿勢等について講義し、歌や楽器の活動が‘あそび’の側面とどのように交差することができるかについて学ぶ。幼児曲を良く生かすための楽器付けと編曲のポイントについて学ぶ。) ③ 伴奏法の基礎と応用を演習を通して学んでいく(大人、保育者に必要な音楽性の習得) 	
<p>【評価方法】 平常点、レポート</p>	

【授業科目名】 図画工作研究	
【開講期】 1年 前期	【担当者】 花原 幹夫
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの造形表現活動の援助について、具体的な実践事例をもとにして学びます。</p> <p>特に、豊かな造形表現を実現するための環境づくりと援助のあり方について考察します。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>◆以下のテーマについて、授業を展開していきます。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの造形表現活動を豊かにしていくための環境づくりについて。 2. 子どもの造形表現活動を保育者として、どう受けとめ、どう働きかけるか、について。 3. 以上の2つのテーマについて、実際の保育現場での実践事例を検討材料にして、援助指導のあり方について分析考察をしていきます。 <p>(実際に保育現場へ行ったり、保育現場からのVTRや作品などの具体的な実践資料を活用していきます)</p> <p>*各授業の中で、レポート報告や話し合いなどの実践検討を行なっていきます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業で学んだ内容を一冊のノート（orファイル）にまとめて提出</p>	

【授業科目名】 現代保育特論 I	
【開講期】 1 年 後期	【担当者】 民秋 言
<p>【授業目標】 都市化、核家族化・少子化、女性（とくに母親）の社会進出の増大 価値観の多様化など社会のはげしい動きのなかで保育ニーズは多様化 し、さまざまな保育のあり方が求められている。さらに、児童福祉法 の改正をもととする制度変革期にあつて、保育行政からの課題も少な くない。家族や地域社会の保育ニーズにどう応えるか、そのための専 門性をいかに習得していくか、主として保育園に例をとりつつも幼稚 園にも共通のテーマとして捉えていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>講義中に適宜指示する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをとりまく社会の動き 2. 保育をとりまく社会の動き (1)都市化 3. 保育をとりまく社会の動き (2)核家族化 4. 保育をとりまく社会の動き (3)少子化 5. 保育をとりまく社会の動き (4)女性の社会進出の増大 6. 保育をとりまく社会の動き (5)価値観の多様化 7. 保育制度の改変と保育園 (1)保育行政の変化 8. 保育制度の改変と保育園 (2)保育園機能の変化 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート並びに平常点</p>	

【授業科目】 保育健康学特論	
【開講期】 1年 前期	【担当者】 村田 務
<p>【授業目標】</p> <p>1 日常の保育活動の中で遭遇するさまざまな子どもの健康問題や健康保育の実践について、その背景と対応策の検討を通して具体的に理解する。</p> <p>2 子ども自身の健康問題や保育に関わる健康問題、保健活動に対する健康学的な見方や考え方について理解を深める。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr/> <p>【参考書】</p> <p>毛利子来・山田真編集：ちいさい・おおきい・よわい・つよい，ジャパンマシニスト社。 日本保育園保健協議会：保育と保健，日本小児医事出版。 （保健・育児雑誌） チャイルドヘルス，診断と治療社。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>保育健康学特講は、保育実践における諸問題を健康学（健康の維持増進と疾病予防の学問）的に検討し理解することを目的とする。その授業内容は、大きく分けて、子どもの保健管理（主体管理，環境管理，生活行動管理），保健教育，保育者の健康管理の3領域からなる。</p> <p>今日、健康対策において「ヘルス・プロモーション」という概念が強調され、周囲の仲間とともに自らのからだや健康をまもり育てることのできる人間、そして、健康的な環境と状況を創りだしていける人間が求められている。</p> <p>そこで、保育実践に関わる健康問題を検討するためのアプローチと視点は、教育学的、及び行動科学的な手法を重視する。毎回の授業は、学生からのレポート報告とその検討を通して行う。</p> <p>主なレポートテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予防接種はどれを、どう受けますか。 ・ 健康診断で何が分かるの。 ・ おやつ，お菓子はむずかしい。 ・ 肥満は病気のもと？ ・ 子どもたちに何を食べさせたらいい？ ・ けが，誤飲，転落の心配。 ・ 育児に除菌は必要ないの。 ・ 知りたい食中毒と伝染病。 ・ 知りたいインフルエンザ。 ・ アレルギー増加が心配です ・ 注意欠陥多動性障害（ADHD）ってなに？ ・ 乳幼児突然死症候群（SIDS）ってなに？ 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート，学習に対する意欲と努力</p>	

【授業科目】 乳児保育特論	
【開講期】 1年 前期	【担当者】 鈴木 佐喜子
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育における現状と課題を明らかにするとともに、今日、焦点となっている理論的、実践的問題を取り上げ、乳児保育についての理解を深める。また、子どもの育ちを保障する保育、親への援助のあり方を実践的に追求する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に、指示する</p> <p>.....</p> <p>【参考書】</p> <p>授業時に紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>概ね、以下の内容で授業を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児の発達と保育実践 <ol style="list-style-type: none"> (1)発達研究、実践研究が明らかにした乳児の発達と保育 (2)乳児を保育実践についての各自の課題をもとに、実践検討を行う 2. 乳児保育の保育内容・方法に影響を与えている理論の検討 <p>母子関係論、アタッチメント研究と乳児保育</p> 3. 乳児保育をめぐる状況と問題 <ol style="list-style-type: none"> (1)乳児保育ニーズの増大と保育所 (2)乳児の長時間保育 (3)今日の子育てと乳児保育 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①平常授業でのレポート、討議への参加 ②学期末レポート 	

【授業科目】 障害児保育特論	
【開講期】 前期	【担当者】 堀江まゆみ
<p>【授業目標】</p> <p>障害のある子どもの保育を取り巻く現状について理解を深め、障害児保育（統合保育）の理論と実践の現在の到達点を探る。</p> <p>特に、保育実践および教育実践における実践的テーマを設定検討や議論を深めるとともに、子どもに関わりながら調査や記録をとりグループワーク形式で検討・研究をすすめる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業の中で提示する</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>「いまどきしょうがい児の母親物語」ほれほれくらぶ（ぶどう社）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育を取り巻く現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料・手記を読み合わせしながら課題を探る 2. 保育実践における実践的テーマの設定と子どもとのかかわり <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料・手記を読み合わせしながら課題を探る ・ 特に保育実践で気になる子（ADHD児など）の特徴の理解を中心に ・ 親の心理とその援助－「障害」の受容とその援助 3. 障害児保育における実践的テーマの設定と子どもとのかかわり <ul style="list-style-type: none"> ・ 就学と選択；養護学校－障害児学級 小学校（部）－中学校（部）－高等部における課題 ・ 教育の中でめざすもの－特に、卒業後の地域生活を念頭におきながら 4. 実際に障害のある子どもと関わりながら、テーマ課題について検討しグループワークをすすめていく 	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験・平常点</p>	

【授業科目】	児童福祉特論	
【開講期】	1年 前期	【担当者】 中山正雄
【授業目標】	<p>これまでの児童福祉の学習を基礎にしつつ、家族状況の多様化及び少子社会における子どもの問題に重点をおいて、その背景を地域・社会のあり方、児童福祉施策との関連で深め、地域の子育て支援と児童の健全育成のために果たすべき保育士の役割を具体的に検討する。児童福祉施策の現状を論じた後に、子ども虐待、いじめ、少年犯罪を題材に子ども達のおかれている現状と、子どもの権利の具体的な実現についての専門職としての役割、地域社会における保育士の役割の重要性を明らかにし、児童福祉の担い手としての観点を養う。</p>	
【テキスト】	使用しない	
【参考書】	授業の中で紹介する	
授 業 計 画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と子どもの置かれた現状 少子社会における子どもの現状を、いじめ、不登校などの問題を通して考える。 2. 地域の子育て支援と児童福祉施設の役割 家庭の子育て力が低下している中、子育ての社会化への歩みが求められている。児童福祉施設が行っている子育て広場、ショウトステイ、トワイライトステイ、等を概説し施設の役割を考える。 3. 子どもの虐待問題と子育て 子どもの虐待が増加している。虐待のメカニズムと虐待の無い子育てへの支援を考える。また、子ども虐待防止法の活用と今後の整備について考える。 4. 子どもの犯罪その理解と対応 少年犯罪の現状を概説し、子どもの犯罪の背景と援助について考える。 5. 虐待を受けた子どもの理解とケア 虐待を受けた子どもの様々な行動上の問題について事例を基に検証し、子どもの理解と援助の方法について考える。 6. 子どもの権利条約の実現とわたしたちの役割 子どもにとって様々な問題が多い社会状況であるが、子どもの権利条約を実現するために必要なことを検討し、児童福祉の将来とその課題を探る。 		
【評価方法】	授業の出席と積極的な討議への参加及びレポート	

【授業科目】 保育問題研究 I	
【開講期】 前期（集中講義）	【担当者】 加藤理
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの文化の様々な事例を取り上げながら、現在の子どもたちの生活と子どもたちの姿を理解する。また、文化と子どもとの関係を視点にしながら、子どもという存在の問い直しを図る。</p>	
<p>【テキスト】</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>浅岡靖央・加藤理編著『文化と子ども—子どもへのアプローチ』（建帛社、1900円）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>次の項目を盛り込んで講義を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの文化の現在 2 児童文化と子ども—童謡を事例に 3 子ども文化と子ども—わらべ唄と替え歌を事例に 4 子どもが関わる文化と子ども—歌謡曲を事例に 5 子ども文化の循環—子どもの歌を事例に 6 子どもの生活時間・空間・仲間 7 子ども文化と大人と子どもとの関係—めんこ・ベーゴマの変遷を事例に 8 希望としての子どもの文化—絵本を事例に 9 子ども文化の危険—歴史的視点から 10 子ども文化とチャイルドネイチャー <p>以上の項目を、おもちゃや江戸・明治・大正期の古い子ども向け読み物など様々な実物に触れてもらいながら考察を進めていく。また、適宜ビデオを使用しながら理解を深めてもらう。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>講義への参加の様子を中心とした平常点とレポートによる総合評価。</p>	

[授業科目名] 保育問題研究Ⅲ	メディア時代と保育
[開講期] 保育専攻1年、2年・後期	[担当者] 八木 紘一郎
<p>[授業目標]</p> <p>実は、保育現場では「保育のメディア」とでも呼ぶような様々な形と方法による多種多様なメディアを活用して保育は行われている。これらの「保育メディア」が子どもの自立的な生活や子どもの発達への何にどのように影響を及ぼすのかを考える。また、どのような活用が求められるのかについても考察する。さらに、今日的なデジタルメディアの激変が子どもの生活、家庭にどのような影響を及ぼし、保育にどのような影響を及ぼしているのか、そのために、これからの保育者の課題は何か、方策について実践的に考える。</p>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>参考書 「ニューメディア時代の子どもたち」子安増生、山田富美雄編・有斐閣 「マルチメディア時代の子どもたち」八木紘一郎共著・産調出版</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1・子どもの生活と「保育メディア」</p> <p>(1) マークという「メディア」の果たす役割</p> <p>子どもの個人マーク ・ 靴箱のマーク クラス名のマーク ・ どの園バスに乗車するかのマーク 誰が係、当番なのかを表示しているマーク</p> <p>★ 園生活の中で提示されているさまざまなマークの表示の意味について考える。</p> <p>(2) 諸活動の展開や流れを説明している各種の「メディア」</p> <p>カレンダー、予定表、分担表、流れ図、説明図、設計図、模型など</p> <p>★ それらの“有無”及び“方法”などが、果たして保育にどのような影響をもたらすのか、子どもにどのような影響をもたらすのかを検討する。</p> <p>(3) 園と家庭、地域、職員間をつなげる「メディア」の各種</p> <p>クラス便り、園便り、各種お知らせのちらし（遠足の行程や行事の流れ）、ポスターなどの媒体について</p> <p>★ それらの有無と頻度、どのような効果があるのかを考察する。 ★ ホームページの実状</p> <p>(4) メディアとしての保育者</p> <p>保育者の服装、ユニフォーム、髪型、くせ、態度、ふるまい + . . .</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもにとって ⇒ 新しい活動を始める時のインストラクター、モデリング、楽しさが解らない段階にいる子どもにとって . . . 鬼ごっこの鬼、劇活動などの難しい役など ● 保護者にとって ⇒ 懇談会、保護者会の場の役割 <p>★ メディア化していく人の情況</p> <p>2・マスメディア・デジタルメディア・マルチメディアと保育</p> <p>(1) テレビ、ゲームソフト、携帯、仮想現実、</p> <p>メディア環境の急激な進化と普及を概観し、それらが私たち自身や子どもたちにどのような影響をもたらしているのか、五感や思考や身体への影響、人間関係や社会性への影響、表現と感性へのプラスマイナスの影響などについて明らかにして検討する。</p> <p>(2) 子どもの発想・表現とコンピュータソフトの活用</p>	
<p>[評価方法]</p> <p>平常点</p>	

【授業科目】 専攻科実習特演 I	
【開講期】 1 年 後 期	【担当者】 師 岡 章
【授業目標】 ① 専攻科実習の意義と内容を知る。 ② 各自の「実習テーマ」について報告し、学び合う。 ③ 毎週、実習内容について分析し、学び合う。 ④ 実習終了後、全体の分析とまとめをする。	
【テキスト】 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 【参考書】 授業時に適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
① 専攻科実習の意義と内容について話す。 ② 各自の「実習テーマ」について報告し、学び合う。 ③ 具体的な観察の方法について学び合う。(1) ④ 同上 (2) (以上が実習前の内容。以下は、実習中と終了後の内容。) ⑤ 毎週、実習内容についての分析、討論。(計9週) ⑥ 実習終了後、全体で実習内容の分析とまとめをする。 ⑦ 実習記録の小冊子を作成する。	
【評価方法】 平常点とレポート	

【授業科目】 専攻科実習 I	
【開講期】 1 年 後 期	【担当者】 師 岡 章
<p>【授業目標】</p> <p>「専攻科実習特演 I」で学んだ実習内容を基にして実習に取り組む。</p>	
<p>【テキスト】</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>① 質の高い保育者をめざして、総合的な実践能力を高めるために、多様な視点を持って観察し、体験をする。</p> <p>② 実習テーマをもとに、研究的な視点に立ち、実践を考察する。</p> <p>③ より実技的に高度な実践能力を身につけるための体験をする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、実習記録、反省会などを総合して評価</p>	

【授業科目】 総合演習研究 I	
【開講期】 1年 前期	【担当者】 近藤正樹・民秋 言
<p>【授業目標】</p> <p>近頃の社会的問題として児童虐待とか“いじめ”とか不登校とか気がかりな話題が増えてきた。これらは子ども間ばかりではなく、おとな間やおとなと子どもの関係、すなわちヒトとヒトとの関係が歪んでいること、不自然になってきたことと指摘されている。</p> <p>本講では、社会学的、自然科学的な考察のしかたを提示しながら、“集団の理解”という副題のもとに演習と講義を展開する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使用しない</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>各項目ごとに、その都度紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>＝ 集団の理解 ＝</p> <p>集団の哲学的理解 集団とは何か 個体と集団 超個体的個体 個体群 ヒトの集団（社会）の特性 個人と法人</p> <p>集団の生物学的（行動学的）理解 集団行動の比較と集団の進化 集団構成の秩序 集団にみられる性（性質・傾向）と制（形質・システム）</p> <p>集団の社会学的理解 家族と友人とその他の人びと 集団の機能 集団を保つための規範 役割構造と権威の構造</p> <p>集団の教育効果</p> <p>集団特性の抽象的把握 集団理解上の技術 分布の様式と密度 集団特性の検証 特性値の統計操作</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>宿題の発表状況と期末試験による</p>	

【授業科目】 修了研究演習	
【開講期】 1 年 前期・後期	【担当者】 専任教員
<p>【授業目標】</p> <p>保育の中で問題とされるテーマを各自選び、その課題解明を試み、論文をまとめる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>各担当教員の指示による</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>各担当教員の指示による</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>① 総合演習研究Ⅰの学習を踏まえ、学生がテーマを決める。</p> <p>② テーマによって、担当教員を決定する。</p> <p>③ 担当教員の指導を受けながら、研究作業を進める。</p> <p>④ 修了研究論文を中間発表会に向けて、整理する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への参加状況、及び修了研究中間発表会における発表内容など総合して評価する。</p>	

保育専攻（2年）

【授業科目】生活保育論	
【開講期】保育専攻2年後期	【担当者】嶋さな江
<p>【授業目標】</p> <p>生活を単なる生活リズム、基本的な生活習慣と狭くとらえるのではなく、幼稚園、保育園における生活全体のあり方を子どもの育ちとの関連から検証し、構想する力量を育むことを目的とする。生活をどう捉えるか、子どもの育ちと生活との関連についての理解を深め、一日の生活や日課の組み方、保育環境、子どもと保育者の関係のあり方、食事など生活の具体的な事柄を、保育論、保育実践を取り上げながら、様々な角度から検討していく。</p>	
<p>【テキスト】</p>	
<p>【参考書】</p> <p>人間関係発達論・・・ひとなる書房 保育：こんなときどうする？ 「異年齢保育」・・・ひとなる書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>授業内容</p> <p>保育園生活の中での子どもたちの過ごし方を実際の姿から知る</p> <p>子どもと大人と一緒に暮らす中で、子ども一人一人が、安心して自分が出せ、まわりからも受けとめられていると実感できるような保育、保育園の生活をどうつくるのかを考える</p> <p>社会的背景を背負って育つ子どもの姿の事実から、新たな”保育園の生活のあり方”を考える</p> <p>授業の方法</p> <p>大人と子どもでつくる生活の中での関係 子どもを暮らしの主人公に 子どもの側の意味に寄り添ったルールづくり 子どもが「時間」を自分のものにしていくということ 保育園の暮らしをつくる視点 暮らしをゆたかにする関係づくり 子どもの姿を通して保育園の暮らしを考える</p> <p>などのテーマにそって、保育実践の中から事例を取り上げたり、実習の経験からも事例を出し合い、お互いから学び合えるように、討論を中心に進める。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業でのミニレポート 最後の授業での総括的なレポート</p>	

【授業科目】 保育実践研究	
【開講期】 2 年 前 期	【担当者】 師 岡 章
<p>【授業目標】</p> <p>保育実践の基本及び理論について、事例をもとに理解する。</p>	
<p>【テキスト】</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業時に適宜、紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>※実践記録及びビデオ教材をもとに具体的に事例を把握する。その際、レポーターを決め、そのレポートをもとに討論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な生活習慣の指導 2. 当番・係活動の指導 3. 遊びの援助 4. 遊びを中心にした総合的な指導 5. 行事の進め方 6. 課題活動の指導 7. 子どもと保育者の信頼づくり 8. 気になる子へのかかわり 9. トラブルへのかかわり 10. 環境を通じた保育 11. チーム保育の進め方 12. 保育実践の評価 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況とレポート</p>	

【授業科目】 保育内容研究Ⅲ	
【開講期】 2年前期	【担当者】 佐々加代子
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児（障害児を含む）の言語の生活化の質に向かう保育の追及をする。話しことば、書きことばの発達過程、思考活動や発想・想像・創造活動までを見通した内容の検討をする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>佐々加代子『コミュニケーション能力弱者のQOL援助』犀書房 佐々加代子『発想・想像・表現』犀書房、佐々加代子『発達臨床相談』犀書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>随時提供する</p>	
授 業 計 画	
<p>言語の生活化は言語習得とその運用にある。言語習得は話しことばと書きことば、高次元の言語能力である思考活動や想像、その具体的表現としてのことばの産生や創作表現までを含んでいくことになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の言語習得過程について概観する。 言語習得過程の第一段階である、コミュニケーション関係の成立過程についての学習をする。習得過程において、重要な役割を果たしていく信号行動系とその機能について体験的に習得していく。 乳幼児の生活と遊びの場面でのVTR、母親の育児日誌、保育の観察記録、保育園や幼稚園の見学観察からの検討をする。 2. 障害児の言語習得過程について概観する。 “障害”の見方 歪みの問題とその要因についての検討 3. 保育者自身の言語の生活化の実態についての検討 保育活動において、その質を高めていくには、保育を担う保育者の質が問われることになる。乳幼児の言語の生活化の担い手ともなる保育者自身の言語の生活化の状況（受講生の現況について）を言語能力の側面とその運用能力に関連する、人間関係（コミュニケーション）能力について評価をする。その上でその保育者の質への道筋についての検討をする。音声表現も含めてみる。 4. いわゆる言語教材；絵本、紙芝居、パネルシアター、ことばあそび、ペープサート、素話、などの素材とその特徴及びその選択法についての検討をする。 5. 対象児の年齢区分別の言語の生活化；かかわりかたの技法 6. 創作作品とその表現法；年齢区分なく使えるものを模索し創作する 7. 保育場面での表現法；音声を含むかかわりかたの検討 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と平常点、演習結果のまとめのレポートとレポートで行なう。</p>	

【授業科目】現代保育特論Ⅱ	
【開講期】2年 前期	【担当者】村田 保太郎
<p>【授業目標】保育制度が措置から契約へ移行する背景と保育園・保育士の対応。 保育士の保護者に対する援助・対人対応。保育サービスの本質。 子育て育児支援及び支援に関わるネットワーク。母親の育児負担感への対応など 現代保育の状況に対する理解を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「保育の根っこにこだわろう PART6」村田保太郎著 全社協刊</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 保育における措置制度から契約制度に移行するまでの経緯について学ぶ 2 保育制度、保育士資格などに関わる児童福祉法の改正について学ぶ 3 保育士の保護者に対する保育に関する指導の在り方と実際について学ぶ 4 事例を通して保護者との対応について学び、事例研究によって深める 5 企業経営のサービスと保育サービスとの違いについて学び、市場原理、規制緩和、地方分権など政治の動向について考察する 6 エンゼルプランによる子育て支援と保育園ならではの子育て支援について理解を深めると同時にその事例を通してその実態を学ぶ 7 子育て支援を中核とした地域のネットワークについて具体的に理解する 8 母親の育児に対する負担感の原因について探求し、母親との対応について具体的に学ぶ 9 少子・高齢化、わが国の人口動態について理解を深め保育園の役割を考える 10 保育所保育指針に新しくもりこまれた内容について事例を通して学ぶ 11 ソーシャルワーク、カウンセリングマインドについて理解を深め、保育園における気になる子や保護者への対応を具体的に学ぶ 12 諸外国の保育事情とわが国の保育条件を通して保育の在り方を考える 	
<p>【評価方法】 1 授業の中でのミニレポート及び授業への積極的態度</p> <p>2 新聞、雑誌等から保育に関する参考資料収集の積極性</p>	

【授業科目】 保育・教育相談研究	
【開講期】 2年 前期	【担当者】 村田 保太郎
<p>【授業目標】 保育・教育相談の今日的意義を理解するとともに、相談の基本的な理論と技術について研究し、保育・教育相談に基づく幼児理解・人間理解を深め、対人対応の在り方や技術について実践力の伴う研究を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 「カウンセリングマインドの探求」子どもの育ちを支えるために 柴崎正行・田代和美 共著 フレーベル館</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 保育・教育相談における今日的意義と課題 2 カウンセリング及びカウンセリングマインドの理解を深め、その理論と技法について実践的な力を習得する。 3 実例を通して、保育・教育相談の在り方について探求する 4 カウンセリング理論の立場から幼児理解・保護者理解を深める 5 カウンセリングマインドを生かした実践例を基にした事例研究 6 ロールプレイングによる保育・教育相談の実際を体験し、対人対応の実践力を高める 7 保護者からの相談、職場の対人関係等の具体例を通して相談研究を深める 	
<p>【評価方法】 1 授業の中でのミニレポート及び授業への積極的態 2 ロールプレイングにおける対人対応の仕方</p>	

【授業科目】 家族福祉論							
【開講期】 2年 前期	【担当者】 奥田啓子						
【授業目標】 少子高齢社会といわれる現在、社会的問題現象（マクロ）が顕著に出現している。その問題現象の基底には、家族関係の歪みが潜在していることが多い。多様な視点から家族をめぐる状況を検討し、「家族の自立」へ向けていかなるアプローチが必要なのか。その対応を探求する。							
【テキスト】 使用せず							
【参考書】 必要に応じて紹介する。							
授 業 計 画							
1. 「家族」とは何か <ul style="list-style-type: none"> ・ 「家庭」の定義をめぐって ・ 現代家族のイメージ ・ ライフサイクルとライフコース 2. 家族福祉の視点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「家族」の養育機能・扶養機能 ・ 家族関係の問題 ・ 障害者と家族 ・ ジェンダー論と家族福祉 3. 家族福祉の具体的展開（方法） <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の自立 → 個々の自立 ・ 家族の自立への支援 ・ 家族をめぐる諸制度（関連） 4. 家族福祉の発展過程 <ul style="list-style-type: none"> ・ 慈善組織運動と家族福祉 ・ 環境改善運動と家族福祉 * ディスカッション —検討課題— <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">①現代家族構造の特徴と家族関係</td> <td style="width: 50%;">②核家族化・少子高齢化の理念と検討</td> </tr> <tr> <td>③児童家族福祉施策の現状と課題</td> <td>④児童家族福祉の理念と検討</td> </tr> <tr> <td>⑤家族の自立とは</td> <td></td> </tr> </table>		①現代家族構造の特徴と家族関係	②核家族化・少子高齢化の理念と検討	③児童家族福祉施策の現状と課題	④児童家族福祉の理念と検討	⑤家族の自立とは	
①現代家族構造の特徴と家族関係	②核家族化・少子高齢化の理念と検討						
③児童家族福祉施策の現状と課題	④児童家族福祉の理念と検討						
⑤家族の自立とは							
【評価方法】 以下の項目の総合によって評価する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業はすべてディスカッションによって進めるのでその参加状況 2) 受講生の発題内容 3) 授業時間内での課題に対するペーパー（提出する）の内容 4) その他 							

【授業科目】 保育問題研究 I	
【開講期】 前期（集中講義）	【担当者】 加藤理
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの文化の様々な事例を取り上げながら、現在の子どもたちの生活と子どもたちの姿を理解する。また、文化と子どもの関係を視点にしなが、子どもという存在の問い直しを図る。</p>	
<p>【テキスト】</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>浅岡靖央・加藤理編著『文化と子ども—子どもへのアプローチ』（建帛社、1900円）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>次の項目を盛り込んで講義を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの文化の現在 2 児童文化と子ども—童謡を事例に 3 子ども文化と子ども—わらべ唄と替え歌を事例に 4 子どもが関わる文化と子ども—歌謡曲を事例に 5 子ども文化の循環—子どもの歌を事例に 6 子どもの生活時間・空間・仲間 7 子ども文化と大人と子どもの関係—めんこ・ペーゴマの変遷を事例に 8 希望としての子どもの文化—絵本を事例に 9 子ども文化の危険—歴史的視点から 10 子ども文化とチャイルドネイチャー <p>以上の項目を、おもちゃや江戸・明治・大正期の古い子ども向け読み物など様々な実物に触れてもらいながら考察を進めていく。また、適宜ビデオを使用しながら理解を深めてもらう。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>講義への参加の様子を中心とした平常点とレポートによる総合評価。</p>	

[授業科目名] 保育問題研究Ⅲ	メディア時代と保育
[開講期] 保育専攻1年、2年・後期	[担当者] 八木 紘一郎
<p>[授業目標]</p> <p>実は、保育現場では「保育のメディア」とでも呼ぶような様々な形と方法による多種多様なメディアを活用して保育は行われている。これらの「保育メディア」が子どもの自立的な生活や子どもの発達への何にどのように影響を及ぼすのかを考える。また、どのような活用が求められるのかについても考察する。さらに、今日的なデジタルメディアの激変が子どもの生活、家庭にどのような影響を及ぼし、保育にどのような影響を及ぼしているのか、そのために、これからの保育者の課題は何か、方策について実践的に考える。</p>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>参考書 「ニューメディア時代の子どもたち」子安増生、山田富美雄編・有斐閣 「マルチメディア時代の子どもたち」八木紘一郎共著・産調出版</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1・子どもの生活と「保育メディア」</p> <p>(1) マークという「メディア」の果たす役割</p> <p>子どもの個人マーク ・ 靴箱のマーク クラス名のマーク ・ どの園バスに乗車するかのマーク 誰が係、当番なのかを表示しているマーク</p> <p>★ 園生活の中で提示されているさまざまなマークの表示の意味について考える。</p> <p>(2) 諸活動の展開や流れを説明している各種の「メディア」</p> <p>カレンダー、予定表、分担表、流れ図、説明図、設計図、模型など</p> <p>★ それらの“有無”及び“方法”などが、果たして保育にどのような影響をもたらすのか、子どもにどのような影響をもたらすのかを検討する。</p> <p>(3) 園と家庭、地域、職員間をつなげる「メディア」の各種</p> <p>クラス便り、園便り、各種お知らせのちらし（遠足の行程や行事の流れ）、ポスターなどの媒体について</p> <p>★ それらの有無と頻度、どのような効果があるのかを考察する。 ★ ホームページの実状</p> <p>(4) メディアとしての保育者</p> <p>保育者の服装、ユニフォーム、髪型、くせ、態度、ふるまい + . . .</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもにとって ⇒ 新しい活動を始める時のインストラクター、モデリング、楽しさが解らない段階にいる子どもにとって . . . 鬼ごっこの鬼、劇活動などの難しい役など ● 保護者にとって ⇒ 懇談会、保護者会の場の役割 <p>★ メディア化していく人の情況</p> <p>2・マスメディア・デジタルメディア・マルチメディアと保育</p> <p>(1) テレビ、ゲームソフト、携帯、仮想現実、</p> <p>メディア環境の急激な進化と普及を概観し、それらが私たち自身や子どもたちにどのような影響をもたらしているのか、五感や思考や身体への影響、人間関係や社会性への影響、表現と感性へのプラスマイナスの影響などについて明らかにして検討する。</p> <p>(2) 子どもの発想・表現とコンピュータソフトの活用</p>	
<p>[評価方法]</p> <p style="text-align: center;">平常点</p>	

【授業科目】 専攻科実習特演 II	
【開講期】 2 年 後期	【担当者】 鈴木 佐喜子
<p>【授業目標】</p> <p>専攻科実習IIと有機的に結び付けて学習するなかで、実践を多面的・専門的により深く捉え実践力を高める。</p> <p>①専攻科実習IIの意義と内容を知る。</p> <p>②指導実習の内容について考える。</p> <p>③「実習テーマ」について報告し、学び合う。</p> <p>③実習内容について分析し、学び合う。実習終了後、実習のまとめをする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>.....</p> <p>【参考書】</p> <p>授業時に適宜、紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>① 専攻科実習について、その意義と位置づけについて話す。</p> <p>② 各自の実習内容について報告し、検討を行う。</p> <p>③ 各自の実習テーマ、指導実習の内容について報告し、検討する(1)</p> <p>④ 同上 (2)</p> <p>⑤ 同上 (3)</p> <p>(以上が実習前の内容。以下は、実習中と実習終了後の内容)</p> <p>⑥ 実習内容についての分析、討論。(1)</p> <p>⑦ 同上 (2)</p> <p>⑧ 同上 (3)</p> <p>⑨ 同上 (4)</p> <p>⑩ 同上 (5)</p> <p>⑪ 実習全体のまとめ－実習記録報告を作成するための討論とまとめ(1)</p> <p>⑫ 同上 (2)</p> <p style="margin-left: 150px;">} 各自の実習を撮影したビデオを見ながら、</p> <p style="margin-left: 150px;">} 分析、検討を行う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点とレポート</p>	

【授業科目】 専攻科実習 II	
【開講期】 2 年 後期	【担当者】 鈴木 佐喜子
<p>【授業目標】</p> <p>① 「専攻科実習特演II」で学んだ実習内容を基にして実習に取り組む。</p> <p>② 各自が決めた「実習テーマ」に基づいて実習を行う。</p> <p>③ 各自の実習をビデオに撮影する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr style="border-top: 1px dotted black;"/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>① 質の高い保育者を目指して、主体的に実習に取り組む。</p> <p>② 実習中の2週目の土曜日に、学内で実習途中の反省会を行う。</p> <p>③ 各自の実習をビデオに撮影する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と実習記録、反省会などを総合して評価する</p>	

【授業科目】 総合演習研究Ⅱ	
【開講期】 2 年 前期（後半）・後期（前半）	【担当者】 鈴木 佐喜子・民秋 言
<p>【授業目標】</p> <p>この科目は、「総合演習研究Ⅰ」の成果を土台として、保育者として、一層高度な資質を養い、実践的な力量を高めることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr/> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>この科目では、より高い実践的な力量、指導力を高めるために、位置づけ、ディスカッション、実地体験、調査等の方法を用いて演習的に行う。</p> <p>「総合演習研究Ⅰ」の課題「人間尊重・人権尊重」「少子化問題」「多様な保育ニーズ」「異文化理解」「社会への男女共同参画」等を取り上げ、幼稚園教育・保育の場においてどのように実現していくのか、指導方法や保育内容等、実践的に検討する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・授業における討論への参加状況・レポート</p>	

【授業科目】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかで問題とされるテーマを各自選び、その課題解明を試み、論文にまとめる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>各担当教員の指示による。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合演習研究 I の学習を踏まえ、学生がテーマを決める。 2. テーマによって、担当教員を決定する。 3. 担当教員の指導を受けながら、研究作業を進める。 4. 修了研究論文をまとめ、提出する。 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への参加状況および修了研究論文により評価する</p>	

福 祉 専 攻

【授業科目】 老人福祉論	
【開講期】 前期・後期	【担当者】 佐野 英司
<p>【授業目標】</p> <p>前期は、老人福祉についての基本的視点をしっかり身につけることを授業目標に進め、後期はケアのあり方など実践に即して学習していきます。また、介護保険をはじめ老人福祉制度については、前期実習前にその初歩を、本格的学習は後期の課題とします。</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老人福祉の社会的背景について学ぶ。 2. 老人福祉の理念・目的を学ぶ。 3. 老人のおかれている状況及び生活実態について学ぶ。 4. 介護保険制度をはじめ、現行および今後の老人福祉、老人保健の政策、制度について学ぶ。 5. 老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続き、具体的実践活動を学ぶ。 6. 老人福祉実践について具体的事例をもとに学び、ケアの在り方について考える。 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の人権を守るケアの在り方について学ぶ。 2. 在宅福祉への取り組み方、および地域社会との連携の意義と方法について学ぶ。 3. 家族やボランティアとの関わる意義と方法について学ぶ。 4. 施設運営の円滑化について学び、他業種との連携の意義と方法について学ぶ。 5. 福祉労働の在り方について学ぶ。 	
<p>【参考図書】</p> <p>「すべての人にゆたかな老いを」 (文理閣)</p> <p>その他、授業中に適宜紹介します。また、参考論文はコピーして授業で使います。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>授業は、上記授業目標を具体化し、講義ノートを作成したいと思います。 また、ビデオも活用します</p>	
<p>【評価の方法】</p> <p>授業は、定時に始めます。授業の合間になるべく小グループによる話し合いを取り入れます。一つの項目が終了する度に「まとめのレポートテスト」を授業内で書きます。</p> <p>また、定期試験は、レポートとします。授業は最初から聞いていないと理解が不十分です。したがって、遅刻は厳しくチェックします。</p> <p>評価は、平常点（遅刻、欠席、まとめのレポート）30%、試験（レポート）70%で、その総合点で評価します。</p>	

【授業科目】リハビリテーション論	
【開講期】後期	【担当者】西本典良
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションとは何かを知るためにリハビリテーションの目的を知ること 2. リハビリテーションは障害者の全人的な復権を目標とする総合的なアプローチであり、その出発点は「障害」を理解することにある。そのためにはリハビリテーションの対象となる代表的な障害の諸側面を知ること 3. 介護の現場におけるリハビリテーションのあり方や一般の社会生活における心身の障害者への理解やかかわる方法について実践的に学ぶこと <p>上記目標をもって講義を中心に視聴覚教材なども用いながらすすめます。授業では学生からの意見や質問など歓迎します。可能な限りディスカッションしながらの授業に気を配るつもりです。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『学びやすいリハビリテーション論』 硯川真旬編 金芳堂 1999</p> <p>『リハビリテーション』 砂原茂一著 岩波新書 1980</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの歴史、理念・定義とその変遷 2. リハビリテーション目的とプロセス 3. リハビリテーションの対象となる「障害」の理解 4. 疾病・障害による行動と生活の障害 5. リハビリテーション各論① 発達障害 6. リハビリテーション各論② 身体障害その1 7. リハビリテーション各論② 身体障害その2 8. リハビリテーション各論③ 知的障害 9. リハビリテーション各論④ 精神障害 10. リハビリテーション各論⑤ 高齢者のリハビリテーション 11. 介護場面におけるリハビリテーションのあり方と方法① 12. 介護場面におけるリハビリテーションのあり方と方法② 13. リハビリテーションに関わる専門職 14. その他 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席、レポートなどによって評価します。</p>	

【授業科目】 老人・障害者の心理	
【開講期】 後期	【担当者】 奥住 秀之・高山 緑
<p>【授業目標】</p> <p>〈奥住〉 基本的な発達障害の基礎（定義、原因、行動特性）について学習しよう 障害のある人の心理と行動特性について、具体的な場面をVTRで追いながら、考察しよう</p> <p>〈高山〉 本講義のねらいは老年期の心理を理解することである。年齢をとれば誰にでも起きる正常な加齢変化と、病気などが原因で起きる病的な加齢変化とを区別して、現実におこっている加齢変化（老化）を偏見なく理解できるようにする。また、生涯発達の様相の中で、老年期の発達を学んでゆく。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>〈奥住〉 太田昌孝編『発達障害児の心と行動』放送大学教育振興会（ISBN4-595-11395-1）</p>	
<p>【参考書】</p> <p>〈奥住〉 講義中に指示します</p> <p>〈高山〉 下仲順子（編）老年心理学 培風館 西村純一（著）成人発達の心理学 酒井書店</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>〈奥住〉 この講義では、授業内容は大きく2つに分かれます。</p> <p>1 基本的な発達障害の基礎（定義、原因、行動特性）について学びます</p> <p>① ダウン症候群 ② 自閉症、アスペルガー障害、広汎性発達障害 ③ 注意欠陥多動性障害(ADHD) ④ 学習障害(LD)</p> <p>2 障害のある人の心理・行動特性について、VTRを用いて考えます</p> <p>① 自閉症の「問題行動」の背後にある意味を探る ② コミュニケーション手段を失った人の「伝えたい」思い ③ 重い障害のある人が集団で労働的活動することの意義を問う （1は講義形式で行い、2は受講者の発表形式を取りたいと思います）</p> <p>〈高山〉</p> <p>1 老年心理学の歴史・高齢社会のもたらしたもの 高齢者の心理を学ぶにあたり、加齢変化や老年期などの概念と理論、老年心理学の</p>	

※次ページへ続く

※前ページより続く

歴史、高齢社会の現状などについて学ぶ。

2 高齢期の疾患と身体・生理機能の老化

高齢期におこりやすい身体疾患、視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚などの感覚機能の加齢変化、および運動機能の加齢変化などについて学ぶ。

3 高齢者の記憶

記憶の加齢変化の特徴について学び、記憶の低下による失敗を少なくするにはどうしたらよいか、考える。

4 高齢期の知能・創造性・知恵

生涯を通じて知能はどのように発達するのか、生涯発達の視点にたって理解する。また高齢期の創造性、知恵にいても学んでゆく。

5 人格と加齢・高齢期の適応

人格が成人期以降、どのような発達・変化をするのか生涯発達の視点にたって理解する。

6 死と死にゆく過程

死にゆくプロセスについて学び、人間として尊厳に満ちた死を迎えるにはどうしたらよいか、また残された人々のこころをどのように理解したらよいかについて考える。

7 高齢期の家族と対人関係

高齢期の家族関係、対人関係について、モデルや研究成果をふまえながら理解する。

【評価方法】

≪奥住≫授業態度と試験（テキストとノート、持ち込み可とする予定）

≪高山≫講義への取組み方・レポート等から総合的に評価する。

【授業科目】 家政学概論	
【開講期】 前・後期	【担当者】 林 薫・大高真紀子・引地和枝
<p>【授業目標】</p> <p>〈林〉 「家政学概論」では、高齢者や障がいのある場合など、その内容に適した食事支援を行うための基礎となる家政学（栄養学、調理学、その他）の理論を学ぶ事を目的としています。学生自身が食生活の重要性を理解し、望ましい生活・食生活環境の中で、対象者の食べる力を最大限に支援できるように、実践力をつけて頂きたいと考えております。</p> <p>〈大高〉 私たちの日常生活の基盤である住居について、基本的な知識を習得し、高齢者や障害者と住居について福祉住環境という視点から理解を深めることを目的とする。</p> <p>〈引地〉 生活基盤をなす、家政学の概要を被服生活の分野について、必要な基礎知識を概説し、介護者として高齢者や障害者の衣料品について実践の場に役立てられるように問題点を考える。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>〈林〉 福祉養成講座編集委員会編集「家政学概論」 中央法規</p> <p>〈大高〉 介護福祉士養成講座⑧「家政学概論」 中央法規出版</p> <p>〈引地〉 佐々井啓・茂木美智子・他編著「新・家政学概論」 誠信書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>〈林〉 参考書は講義の中で紹介する。</p> <p>〈大高〉 後藤久 他 「基礎シリーズ 住居学入門」 実教出版 大野隆司他 「福祉住環境」 市ヶ谷出版社</p> <p>〈引地〉 中島満喜子・君津君代・土橋とき子共著「寮母・ヘルパーの家政学①被服」全国社会福祉協議会)</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>〈林〉 授業計画と進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 栄養学の基礎知識 3. 食品衛生の基礎知識 4. 調理学の基礎知識 5. 高齢者の食生活 6. 障がいのある場合の食生活 <p>〈大高〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 住居の役割と機能 	

※次ページへ続く

※前ページより続く

2. 生活行動と生活空間
3. 快適な室内環境
4. 住居の維持管理
5. 住宅の構法・関連法規
6. 高齢者・障害者と福祉住環境整備

《引地》

被服生活について、下記の項目について概説する。

1. 被服の役割と機能
 - ①被服着用の目的 ②被服の機能
2. 被服の素材と品質表示
 - ①被服の素材の種類と性能 ②被服の素材の加工 ③被服素材の品質表示
3. 被服と保健衛生
 - ①被服と体温調節 ②被服素材の加工 ③衣料障害
4. 被服の選択と管理（寝具類を含む）
 - ①被服の選択 ②被服の管理
5. 高齢者、障害者と被服
 - ①高齢者の被服 ②障害者の被服

以上をもとに、とくに高齢者、障害者の最適衣料品のあり方について考える。

【評価方法】

《林》・定期試験で80%、レポートで10%、出席状況及び態度10%で評価します

《大高》出席・授業への取り組み、レポート課題等により、総合的に評価する。

《引地》課題、レポートその他、出席状況などで、総合的に評価する。

【授業科目】 家政学実習	
【開講期】 前・後期	【担当者】 林 薫・大高真紀子・引地和枝
<p>【授業目標】</p> <p>《林》 「家政学実習」では、「家政学概論」での理論を元に、更に在宅や施設などで必要とされる技能の取得を目的として調理実習を行います。</p> <p>《大高》 快適で安全な住生活についての理解を深め、実践力を養うことを目的とする。さらに、高齢者・障害者に配慮した福祉住環境整備について、演習、レポート作成などを通して学んでいく。</p> <p>《引地》 被服の調整ならびに管理に必要な実際を理解することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>《林》 実習毎にプリントを配布します。</p> <p>《大高》 適宜、プリントを配布する。</p> <p>《引地》 佐々井啓編「家政学実習ノート」誠信書房 他、プリントを配布する</p>	
<p>【参考書】</p> <p>《林》 ・調理のためのベーシックデータ(女子栄養大学出版社) ・食事コーディネートのための主食・主菜・副菜料理成分表(女子栄養大学出版社)</p> <p>《大高》 授業の中で、随時 紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>《林》</p> <p>①オリエンテーション及び調理の基礎(実習)</p> <p>②高齢者の食事(実習)</p> <p>③障がいの内容に対応した食事Ⅰ(実習)</p> <p>④障がいの内容に対応した食事Ⅱ(実習)</p> <p>《大高》</p> <p>以下の項目について、実習を中心に学んでいく。</p> <p>1. 住まいの計画</p> <p>①家族周期と住要求</p> <p>②生活ゾーンと住生活</p> <p>③居住形態と住まいの選択(住宅に関わる情報の読み方)</p> <p>④図面の読み方</p> <p>⑤平面図の描き方</p> <p>2. 高齢者・障害者と福祉住環境整備</p> <p>①身近な居住環境の点検</p>	

※次ページへ続く

※前ページより続く

②車椅子利用者や介助に必要なスペース

③住宅改修事例の検討

《引地》

素材の簡単な鑑別の仕方、取り扱い方法、被服の縫製の基礎と応用作品の実習をする

【評価方法】

《大高》出席・授業への取り組み、設計課題、レポート等により、総合的に評価する。

《引地》作品レポートその他、出席状況などで、総合的に評価する。

【授業科目】 介護概論	
【開講期】 1年前期・後期	【担当者】 森山 千賀子
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者・障害者の生活の維持・向上をはかり、快適な生活を過ごすことができるように介護の理論、展開過程、方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>介護福祉士選書 14 『介護福祉概論』 建帛社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉の概念と歴史 2. 介護福祉の目的・機能・専門性 3. 対象の理解ーグループワーク 4. 介護福祉における援助関係 5. 介護福祉に必要なコミュニケーション 6. 介護技術の基本ー安全・安楽・安心・経済性と介護 7. 自立（律）と生活の質の保障と介護 8. 介護福祉の活動領域：地域・在宅・施設 9. 関係職種との連携とチームワーク 10. 介護過程とケアマネジメント 11. 介護福祉と死：終末期の介護 12. 介護者の健康管理と安全対策 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート 平常点</p>	

【授業科目】 介護技術	
【開講期】 1年 前期・後期	【担当者】 森山千賀子・長谷川陽子
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者や障害者がその人らしく快適に生活し、さらに生活の可能性を拓げるための援助である介護の技法を習得する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>介護福祉士選書15 『介護技術』 編著／津久井 十 建帛社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 介護を必要とする人々の生活を理解する。</p> <p>2. 日常生活援助の介護技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーション 2) 観察 3) 居住環境の整備 4) 食事・清潔・排泄・衣類の選択と着脱 5) 社会生活の維持拡大：姿勢・移動の動作 6) 安楽と安寧の技法 7) 医療上の対応と介護 8) 緊急事故時の対応 <p>3. 家族支援のための介護技術</p> <p>4. 福祉用具の概要と活用</p> <p>5. 記録・報告と介護</p> <p>6. 介護過程の展開</p> <p>7. 終末期の介護</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>試験 レポート 平常点</p>	

【授業科目】形態別介護技術	
【開講期】 1年 前・後期	【担当者】森山千賀子・奥田啓子・立花明彦 ・落海文子・藤井京子

【授業目標】

≪森山≫（老人担当）

高齢者介護の基本理念と介護方法の基礎を理解する

≪奥田≫（聴覚障害担当）

1. 聴覚障害に関する医学的知識を理解する。
2. 聴覚障害者の心理や生活状態に即した介護方法を考える。
3. 聴覚障害者のコミュニケーション方法を習得する。
4. 福祉機器に関する知識を習得する。

≪立花≫（視覚障害担当）

視覚障害といっても、その程度、原因、障害発生時期および今後の進行予測など、個人によってさまざまであり、それがもたらす日常生活への影響も異なる。加えて、近年は高齢で視覚障害となる人が増加しており、視覚障害をもつ人々の状況は多様化している。このため、視覚障害者の援助に当たっては一人一人の状態を正しく認識し、適切な介護をすることが求められる。本講義は、そのための基本的な知識・技能の習得を目標とする。合わせて、適切な介護ができるような心構えを養う。

≪落海≫（肢体不自由・内部障害担当）

1. 肢体不自由・内部障害に関する医学的知識を学ぶ。
2. 肢体不自由者（児）・内部障害者の抱える生活上の障害や心理状態を理解し適切な援助方法を学ぶ。
3. 肢体不自由者（児）・内部障害者の介護に必要な技術についての知識を深める。

≪藤井≫（精神障害担当）

精神障害についての理解を深める。地域生活をすすめるための考え方と具体的な方法について学習する。特に働くこと、住まい、ホームヘルプについて制度の概要と実践について学ぶ。

【テキスト】

≪森山≫介護福祉士選書 16 『形態別介護技術－老人編』建帛社

≪奥田≫『手にことばを（初級）』東京都聴覚障害者連盟発行

≪立花≫改訂新版『視覚障害者の介護技術－介護福祉士のために－』
点訳のしおり

≪落海≫『障害形態別介護技術』（中央法規出版KK）

≪藤井≫精神障害者ホームヘルパー研修テキスト（精神障害者社会復帰促進センター）

【参考書】

≪森山≫授業で紹介する

≪奥田≫『わたしたちの手話（1）』全日本ろうあ連盟発行
『伝わる手話 使える手話』池田書店

≪立花≫必要に応じてその都度紹介する。

≪落海≫参考書、資料、ビデオなどは講義の中で紹介する。

授 業 計 画

- 《森山》 1. 高齢者介護を取り巻く環境
2. 高齢者介護の基礎—高齢者の生活と特性
3. 虚弱な高齢者・一人暮らし・高齢者世帯への援助
4. 寝たきり高齢者の理解と介護
5. 痴呆性高齢者の理解と介護
6. 在宅高齢者の理解と介護
7. ロールプレー～様々な疾患や環境にある事例をもとにグループで役割演技を行い、介護の方法や援助者の役割について学ぶ。
- 《奥田》 1. 聴覚障害の原因・種類・程度と聴覚障害の生活への影響
2. 聴覚障害者のコミュニケーション方法と介護の留意点
3. 聴覚障害者の社会生活と情報
4. 手話の基礎的表現と指文字
5. 生活場面での手話表現
6. 歌の手話表現
7. 手話の特徴と文表現
8. 日常会話の手話表現
9. 聴覚障害者との手話練習
10. 手話通訳の基礎的演習
- 《立花》 1. 視覚障害に関係する医学的知識、保有感覚の活用など視覚障害を理解するための基礎的な知識を学習する。
2. 実態調査をもとに、視覚障害者の統計的動向を理解する。
3. 視覚障害の教育、職業、リハビリテーション、ユニバーサルデザインの現状について学習する。
4. 視覚障害者とのコミュニケーションの一つとして、点字の基礎的な知識・技能を学習する。
- 《落海》 1. 肢体不自由（運動機能障害）、内部障害の種類と原因となる疾患などの知識。
2. 肢体不自由者（児）・内部障害者の抱える生活上の障害と障害受容のプロセス。
3. 残存機能の理解と、その人の力を引き出す援助方法の検討。
4. 肢体不自由者（児）、内部障害者のニーズに合った介護技術とQOL向上を目指した生活支援の方法。
5. 介護に必要な福祉用具の知識と活用方法
- 《藤井》 1. 「精神障害」ってどんな障害？
2. 精神障害者施策のあゆみと現状
3. 働くことの意味と共同作業所
4. 住まいと地域での自立生活
5. 当事者の声
6. ホームヘルプ制度の概要と利用の実際
7. 地域生活を支えるネットワークづくり
8. まとめ

【評価方法】

《森山》レポート・平常点・筆記試験

《奥田》授業への出席状態と筆記試験によって評価する。

《立花》出席状況、平常点（学習態度）、筆記試験

《落海》平常点・レポート・筆記試験にて評価する。

《藤井》8回目（最終回）の講義の後半でテストを行う。

【授業科目】 医学一般	
【開講期】 1年 前期	【担当者】 明渡陽子
【授業目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の解剖・生理学を base に、加齢現象や臓器相関性の理解を図る。 2. aging による種々の障害や疾患の理解をはかり、予防法の習得をめざす。 3. 医療・介護の現場で理解しておいた方が better な知識の習得。 4. 健康増進および疾患予防に関する知識の理解。 	
【テキスト】 <p style="text-align: center;">介護福祉士養成口座10 医学一般 (中央 法規)</p>	
【参考書】 <p style="text-align: center;">からだの構造と機能 A. シェフラー ,S. シュミット著 (西村書店) ベッドサイドマニュアル 成人内科看護 (中央法規)</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1.1) 解剖学・生理学を中心に人体全体の仕組みを把握する。 2) 加齢による老化の理解。一定義・特徴・学説・老化に影響する因子など 3) 老年病の特徴の理解。 2. 老化と各種疾患 (解剖学・生理学を review しながら) <ol style="list-style-type: none"> A) 脳、神経系；高齢者脳血管障害の特徴 B) 心、血管系；高血圧、虚血性心疾患（無症候性心筋虚血を含む）、不整脈、心不全 C) 呼吸器系；肺炎、肺結核、慢性閉塞性肺疾患、肺癌 D) 消化器系；高齢者の急性腹症、消化性潰瘍、消化管悪性腫瘍 E) 内分泌、代謝系；高脂血症、高齢者糖尿病 F) 骨、関節系；骨粗鬆症、変形性関節症などの疾患 G) 腎、泌尿、生殖系系；腎不全、前立腺肥大症と前立腺癌、子宮脱等 H) 血液系；高齢者の貧血 I) その他の器官系 (老年各診療科目の対象となる疾病、障害について) 3. 1) カルテ (医療情報提書) の読み方 <ol style="list-style-type: none"> 2) “薬 (処方箋)” の中身の調べ方と重要な薬の副作用の理解 3) 主な検査データの読み方 (血算・生化学・尿など) 4) 入所者の全身状態の把握の仕方 5) 入所者の緊急状態の把握の仕方と救急処置 6) 頻用される医療機器の理解——心電図・吸引機・血圧計・CT・MRI・胸部・腹部 X-P・エコー・アンギオなど 4. 1) 健康の概念 <ol style="list-style-type: none"> 2) わが国の健康水準と健康増進施策 3) 健康増進と生活習慣病などの疾病予防法 <p style="text-align: center;">—食生活と栄養・運動・喫煙・アルコール・休養とストレス—</p> 	
【評価方法】 <p style="text-align: center;">出席点と筆記試験</p>	

【授業科目】レクリエーション活動援助法	
【開講期】1年 前期	【担当者】 菌田碩哉、高橋紀子
<p>【授業目標】 介護サービスの究極の目的は、援助の対象となる人々がいきいきと生きがいを感じながら生きることができるように、生活全体を活性化することである。その中でレクリエーション（日常的な楽しさづくり）援助の果たす役割は大きい。この授業では、これからの社会福祉サービスにおけるレクリエーションの意味と価値を明らかにするとともに、レクリエーション活動援助の基本的な方法と援助者の果たすべき役割について体験学習を織り交ぜながら追求する。</p>	
<p>【テキスト】 介護福祉士養成講座6『レクリエーション活動援助法』（第2版）中央法規</p>	
<p>【参考書】 一番が瀬康子・菌田碩哉編著『余暇と遊びの福祉文化』</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1) 出合いの時間・・よりよく知り合うために 人と人との出合いの喜びを体験し、コミュニケーションを深めるレクリエーションの実際を体験する。</p> <p>2) レクリエーションとは何か レクリエーションのイメージの点検から始めて、レクリエーションという概念がなぜ生まれてきたか、現代の社会でレクリエーションの持つ積極的な意義を検討する。</p> <p>3) レクリエーションと社会福祉 これからの福祉サービスのあり方を考え、その中でレクリエーション活動への援助が果たすべき役割を考える。福祉現場でのレクリエーションを紹介するビデオ視聴を素材に、小グループでの論議を行う。</p> <p>4) レクリエーションの利用者と援助者 レクリエーションの利用者こそが主体者でなければならないことを踏まえて、個別的なレクリエーション援助とグループを介したレクリエーション援助について援助者が身につけるべきコミュニケーション技術や人間関係能力を検討する。</p> <p>5) レクリエーション援助の計画づくり レクリエーション援助は利用者のニーズを捉えるところから始まり、アセスメント－企画－実施－評価のプロセスを踏んで行われることが望まれる。その進め方を具体的な事例に即して検討する。</p> <p>6) 福祉現場のレクリエーションの現状と課題 学期途中で行われる実習を利用して現場のレクリエーションを観察、取材し、それをもとに今後のレク・サービスの課題を考える。</p> <p>7) ケーススタディ(1) ・・高齢者の場合 高齢者のレクリエーションの事例を取り上げ、それが持つ可能性、援助を行う上での問題点、高齢者にふさわしいレクリエーションの素材研究を行う。</p> <p>8) ケーススタディ(2) ・・障害者の場合 障害者のレクリエーションの問題を、障害者の生活を豊かにするノーマライゼーションの一環という視点から取り上げ、バリアフリーの実現の方策を検討する。</p> <p>9) 「レクリエーション財」の体験 レクリエーションは多様な素材とプログラム（レクリエーション財）を擁している。それらを整理し、代表的なものを体験して身につける。</p> <p>10) レクリエーション・パーティ実習 遊びの精神を生かし、一人一人が主人公であるような楽しいパーティを企画し、みんなで役割を分担して実施し、ビデオの記録を撮って振り返りを行う。</p> <p>* 授業は必ずしもこの順序ではなく、理論面（菌田）と実践面（高橋）を交互に行うこともある。</p>	
<p>【評価方法】 授業時に書く感想やワークシートと最後の総括レポートの出来ばえを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 実習指導	
【開講期】 1年 前期・後期	【担当者】 森山千賀子・藤井由紀子
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護（体験）実習の重要性について理解する。 2. 介護（体験）実習を通じて学んだ知識・技術・態度を目的かつ実践的に理解する。 3. 実習終了後の集団学習を通して、総合的な対応能力を習得する。 4. 事例研究等の進め方を学び、多面的な視点で一人の人をとらえる方法を理解する。 	
<p>【テキスト】</p> <p>最新介護福祉全書 17 『介護福祉実習指導』 メヂカルフレンド社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設介護実習・訪問介護実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習の目的について理解する。 2) 施設介護実習の準備として、施設実習の機能と利用者について理解する。 訪問介護実習の準備として、地域・家族・利用者について理解する。 3) 実習記録の書き方について学ぶ。 4) 実習後のグループワークにより、お互いの経験を交流し、今後の課題を明らかにする。 2. 介護過程の展開について学び、実習終了後に事例としてまとめ、自己の介護を客観的に見つめる視点を持つ。 3. プロセス・レコードの検討や事例研究を通して、様々な角度から一人の人をとらえる方法を学ぶ。 また、他者の意見を聞き検討する中で、よりよい介護について考える機会とする。 	
<p>【評価方法】</p> <p>実習記録 ケーススタディ 平常点</p>	

【授業科目】 介護実習	
【開講期】 1年 前期・後期	【担当者】 森山千賀子・藤井由紀子
【授業目標】 1. 施設・地域で生活してしている人々の「暮らし」を理解し、施設設備や施設職員のあり方や必要な介護サービスについて考える。 2. 学校で学んだ理論・技術を基礎として、利用者の状況に応じた介護ができる。 3. 介護福祉士としての介護観を養う。	
【テキスト】 	
【参考書】 授業で紹介する	
授 業 計 画	
<p>介護実習は、45日間をⅢ期に分けて行う。</p> <p>1. 施設介護実習</p> <p>1) 第1段階（2週間） 5月17日（月）～ 6月 5日（土） * コミュニケーションが比較的とりやすい利用者との人間的な関わりを深め、利用者のニーズは何かを理解する。 * 初歩的な日常生活援助を体験する。 * 施設職員の一般的な役割について学ぶ。</p> <p>2) 第2段階（2週間） 9月 6日（月）～ 9月18日（土） * 利用者との関わりを深め、利用者の生活歴を含めて全人的に理解する。 * 障害のレベルに応じて求められる介護技術の適正な使い方について学ぶ。 * 他職種の役割について理解する。</p> <p>3) 第3段階（4週間） 11月 1日（月）～11月27日（土） * 施設運営のプログラムに参加し、サービス全般について理解する。 * 個別の利用者を担当し、介護過程に展開について学ぶ。</p> <p>2. 訪問介護実習（1週間） 居宅介護事業等の訪問介護員、入浴サービス及び在宅介護支援センター（訪問）職員との同行訪問を行う。 時期については、可能な限り第1段階に実施し、生活者としての利用者の理解を深める。</p>	
【評価方法】 実習記録 レポート 評価表 平常点	

【授業科目名】 社会福祉制度政策論	
【開講期】 前期	【担当者】 佐野 英司
【授業目標】 <p>児童福祉（保育を含む）、高齢者福祉、障害者福祉をはじめ、わが国の社会福祉制度は、ここにきて大きく変貌を遂げつつあります。第二次世界大戦戦後に現在の日本国憲法のもと形作られてきた措置制度という公的責任制を、その基盤としての福祉制度が契約制度という形で根本的な変革を迫られてきています。これから先、保育や児童福祉施設、高齢者福祉や障害福祉の各分野に進むみなさんにとって、自らが進む分野の福祉政策や制度がどうなっていくのかをしっかりと把握することは大切だと思います。</p> <p>この授業では、介護保険制度など高齢者福祉制度については、「老人福祉論」授業に委ね、わが国の社会福祉制度と政策そのものを、児童福祉、保育、障害者福祉分野を中心に学ぶことにします。</p>	
【参考図書】 <p>保育研究所が編集、発行し、草土文化から発売されている「保育制度－現状と改善・拡充のポイント」を手元に置き一読することを薦めます。</p>	
【授業の進め方】 <p>授業は、配布プリントを中心に進めます。グループディスカッションも取り入れ、難しい内容であってもわかりやすい授業になるよう努めます。</p>	
【評価の方法】 <p>出席率を重視します。授業は定時に始めます。 成績は平常授業態度とレポートの総合点で評価します。</p>	

【授業科目】 障害福祉論	
【開講期】 1年後期	【担当者】 遠藤 美貴
<p>【授業目標】</p> <p>学部で学んだこと、経験したことをもとに、さらに深く、広い視点をもてることを目標とする。 そのために</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害をもつ人が置かれている立場を理解する 2. 障害をもつ人が必要としているサービス、制度を知る 3. 権利擁護について学ぶ 	
<p>【テキスト】</p> <p>河野正輝他編『障害をもつ人の人権③福祉サービスと自立支援』有斐閣 他必要な資料は随時配布予定</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業を通じて随時紹介予定</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習 <ol style="list-style-type: none"> (1) ノーマライゼーションについて (2) 障害の概念、法律について (3) 障害をもつ人のサービス利用制度について 2. 障害をもつ人が置かれている立場を理解する <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害をもつ人の生活 (2) さまざまな人権侵害問題 3. 障害をもつ人が必要としているサービス、制度を知る <ol style="list-style-type: none"> (1) 既存のサービス、制度の実際 (2) 入所施設のあり方 (3) 障害をもつ人が必要としているサービス、制度 4. 権利擁護について学ぶ <ol style="list-style-type: none"> (1) 自立生活と自立支援 (2) セルフアドボカシーの概念とその展開 (3) 諸外国における権利擁護 (4) 日本における権利擁護の取り組みと課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への参加態度、レポート、試験でもって評価する。 授業中の私語はマイナス評価とする。</p>	

【授業科目】 社会福祉援助方法論	
【開講期】 前期	【担当者】 鳥羽 信行
【授業目標】 専攻科のみなさんは、すでに社会福祉援助技術の科目を履修しているので、この授業ではいくつかの主要な援助方法に焦点をあて詳しく学習し、実践現場で活用できる知識を体得することを目標とする。	
【テキスト】 	
【参考書】 授業中に適宜紹介する。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の方法とは何か 2. 社会福祉の価値と倫理 3. 対象者のとらえ方 4. ケースワークの原則 5. ソーシャルワークの実践モデル 6. 面接技術 7. ケアマネジメント 8. 自己覚知とスーパービジョン 9. まとめ <p>*授業は講義形式だけではなく、グループ討議・演習・ビデオ鑑賞による学習も予定している。</p>	
【評価方法】 出席状況、授業態度などの平常点、期末レポートの結果による総合評価	

学籍番号・

氏名・

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

教務課 042(346)5619